

2007 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	鋼構造制振小委員会		主 査 名：笠井和彦 就任年月：2006 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 鋼構造運営委員会		委員長名：和田 章 主 査 名：中島正愛
設 置 期 間	2006 年 4 月 ~ 2009 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鋼製制振部材や鉄骨架構からなる制振構造の保有性能評価法の構築 ・ 制振部材や制振構造の解析モデル化手法の構築 ・ 以上をまとめた『鋼構造制振設計指針(仮称)』の刊行 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無： 有 笠井和彦(東京工大)、緑川光正(北海道大)、井上一朗(京都大学)、玉井宏章(広島工大)、木村祥裕(長崎大学)、金子洋文(竹中工務店)、田中清(高環境エンジニアリング)、渡辺厚(後に引野剛、新日鉄エンジニアリング)、加村久哉(JFE 技研株式会社)、石井正人(日建設計)、宇佐美徹(竹中工務店)、松岡祐一(防災科学技術研究所)、山下哲郎(巴コーポレーション、後に工学院大学)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2007 年度予算	610,000 円	ホームページ公開の有無： 無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 上記手法の構築のため行った情報収集は大変有意義であった。 2. ダンパーに関する章は執筆を開始している。 3. 梁・ガセットの保有性能に関する実験結果を得たので、引用する。
委員会活動の問題点・課題	1. 梁・柱部材の保有性能が制振構造にどのように影響するかの検討。 2. 既往鋼材歪応力モデルが機能しないので要検討。別のモデルは問題なし。 3. 軸降伏型・せん断降伏型の鋼製制振部材の累積損傷則の構築・提案。